

「防災塾・だるま」6月定例会 議事録

<http://darumajin.sakura.ne.jp>

- ◆日時 : 2019年6月28日(金) 14:15~15:45 司会: 鷲山 龍太郎
- ◆場所 : 神奈川大学 24号館 310室
- ◆出席者: 池田、荻本、高松、中島、山口(章)、田中(喜)、山田(美)、片山、田中(晃)、玉井、佐々木、山田(富)、稲垣、増田(佳)、松原、中村(誠)、鷲山、釜石 計18名(敬称略)

- 配布資料 1. 「防災塾・だるま」6月定例会議事次第
- 2. 定例会意見交換テーマ: 「災害に立ち向かえる地域社会づくり」(防災 BAT 防災思考曼荼羅)
- 3. 「防災塾・だるま」第11回通常総会議事録
- 4. 今後の「防災塾・だるま」の進路について(荻本塾長)
- 5. 第167回「談義の会レポート(5/24)講師: 杉原英和氏
- 6. 第14回コーディネーター養成講座 日程・時間表(アイスブレイク)
- 7. 大学と地域の防災・減災ミーティング(6/23)
- 8. 大井町防災まちづくりの会(10周年記念講演会(5/26)チラシ、10周年記念誌)
- 9. 「災害時の心理と避難行動」(6/14) 小田原市民交流センター
- 10. 第168回まちづくり談義の会次第(情報6月)

- <配布チラシ> 1. 第169回談義の会チラシ(講師: 松山順三氏 意見交換会7/26(金))
- 2. 松山順三氏との意見交換会7/27(土)(まちづくりネットワーク緑)
- 3. 神大マルシェ(7/5(金)10-14)(地域と学生との交流イベント: 学生ボランティア室主催)
- 4. 気象災害クロスロード7/6(土) 5. 災害ボランティアセンタースタッフ養成講座7/13・20

【定例会意見交換】テーマ: 「災害に立ち向かえる地域社会づくり」(資料2)・・・鷲山、高松、釜石、山田(美)、稲垣、山口(章)、中島、片山(主な発言者)

- ・地域から防災は何をやれば良いのかという声が出て、検討項目を纏めて提案したところ、議論してみると盛り上がった。何を考えれば良いのかを示して、考えてもらうことが良かったと感じる。資料「防災 BAT」の1~7の項目は、防災について考えてもらうための各種項目と思っているが、取り組みが出来ているかどうかの判断の指標にもなる。各自治会における活動を評価する際の指標としても活用してもらえと思う。学校での机の下でだんご虫ポーズとか、神奈川県シェイクアウト訓練にも疑問を感じる。項目の5番目「1HADA LEAF」としてあげた「災害直後1時間の減災行動」については、検討・対策が抜け落ちている自治会が多い。5番の「災害直後1時間の減災行動」と6番目の「事後対応と問題解決」について、自治会内で考えてもらうと良い。その際、出た意見について否定をしないことが大切
- ・お住いのマンションの防災意識は高いと感じるが、訓練はいつから実施していたのか?
- ・マンションの防災に関わって、住民皆に考えてもらうようにしたら意欲が上がった。項目4の「震災発生時の行動(自分と家族の命を守る)」をしないようにするために項目3の「備えあれば憂いなし(家具固定・耐震化・避難訓練・地区防災計画・地域づくり)」をやるようにしている
- ・もっとシンプルにする必要があるのではない。倒壊建物から救助することよりは、建物が倒壊しないようにする減災対策の方が大事ではないか。項目5「災害直後1時間の減災行動」については、消防とか専門家でないと出来ないのではないか。安否確認は出来ても救助は難しい
- ・訓練として行われているが安否確認結果を報告しに行き、さらに集計することに意味があるか
- ・確認に回って異常のあるところを見つけ救出、救助に結び付けるのが安否確認ではないか
- ・異常発見した際、救出の際にどうするのか、ルールを決めておくことの方が大切
- ・地元自治会では異常を見つけたらトランシーバーで本部に連絡し、本部は救助の人を派遣する仕組みにしている
- ・地域では、防災の取り組みだけを推進するのではなく、顔の見えるコミュニティ作りが大切
- ・皆さんの町内会・自治会では出火した後、「放水して消火出来ないと判断した時、消火活動を延焼防止活動に切り替えるか否か」というところまで突っ込んだ議論をしていますか
- ・消火は基本的に消防署が対応するもの。延焼防止についても地元消防団が判断する事ではない
- ・学校には、「学校安全委員会」を設置して、生活安全・災害安全・交通安全の分野ごとに学校安全を推進する計画を作り、計画に基づいて実践する学校を評価するSPS(セーフティプログラム)スクール認証制度がある。地域(コミュニティ)の防災の取り組みを評価するSPC(セーフティプログラム)コミュニティ認証制度が出来れば、地域の取り組みももっと進むし、今より変わっていくのではないかと思う
- ・安否確認は絆づくりが出来ていないと出来ない。普段の訓練では、絆づくりをすることが大切

- ・正常性バイアスに浸かっている人が殆どだが、「防災 BAT (防災思考曼荼羅)」のキーワードを一度考えて貰えば良いのではないかと思う
- ・今日配布した資料は3枚だが100枚以上を纏めたもの。考えたことをもっとシンプルに分かり易くしていきたい

【報告事項】

- ・第167回談義の会「平成の地震災害対策を振り返って(5/24)」(資料5)・・・中島
30年以上県の防災行政に携わられた講師からの提言：大規模災害に対処するため、警察庁と同じような組織(防災庁)を創設する必要がある(参考「首都圏の地震と神奈川」有隣新書)

【主催・共催事業など】

1. 実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座(資料6)・・・中村
 - ・予定講師と講演日程は調整済み。アイスブレイクについては講座の息抜きとなるよう検討を予定
2. J-DAG、3BWG・・・片山、鷺山
 - ・城西大学 J-DAG、：講義は7/11実施。参加学生20数名であり、協力会員6名が参加
 - ・3BWGの小グループ作業は、テーマと完了期限を明確にする。新しい取り組みテーマとして「絆づくり」を予定(防災めぐり(子どもバージョン)有料配布：だるま会員1000円、一般1500円)
 - ・J-DAG安否確認の際の「住民直後情報と指示書の整合性について」は、全体の流れの中で検討
3. 「かながわ人と智をつなぐ防災・減災ネットワーク」(資料7)・・・山田(美)、池田、中島
 - ・神大のクラブ活動は学生10人以上の規模が必要。佐藤ゼミ：越智君のクラブ作りが出来ればだるまとしても活動協力が可能になる。1・2年の学生の参加がポイントになる
 - ・6/23はミーティングとして盛り上がったのが良かった。越智君が動き出しているので、だるまが活動を応援していきたい
 - ・だるまは、学生参加の防災活動について応援・支援していくのが望ましい形と考えられる

【協力・参加・情報・その他】

1. 毎月の情報 6月分・・・増田 毎月の情報提供に協力をお願いします
3. 大井町防災まちづくりの会・10周年5/26(資料8)・・・山田(富)
 - ・熊本地震政府現地対策本部長だった牧島議員が講演。10周年記念誌は地元自治会へ配布を予定
4. 「まちづくりネットワーク緑」・・・田中(晃)
 - ・7/27(土)10-12：松山順三氏意見交換会を開催する。談義の会に参加出来ない人の参加歓迎

【運営関係】

1. 会員、会計関係(資料4)・・・中島
 - ・会員数は119名(学生4名)となっている。去年1年間の退会者は16名、入会は9名
2. 今後の「防災塾・だるま」の進路についての検討(資料4)・・・片山
 - ・「防災塾・だるま」の進路については検討会を設置して検討する。今後1年間で検討し、来年の総会で議論できるような流れを予定している。検討事項が多く、役員会とは別に副塾長と参加希望者を併せ、多くとも10人くらいの委員で検討していくこととしたい

【今後の予定】

1. 2019年7月例会 7月26日(金) 会場：関内ホール地下2階 月担当：田中(栄)、早川
 - ・3BWGプロジェクト 13:00-14:00 担当 片山
 - ・定例会 14:15-15:45 記録担当：中村
話題：「防災情報のレベル化で被害を減らせるか」 担当：田中(栄)
 - ・第169回談義の会 16:00-17:30 記録担当：紅林
テーマ：「(意見交換会)私たちの命は、生活は守れるのか」 講師：松山順三氏(元神戸市職員)
 - ・役員会 7月9日(火) 10:00-12:30 851C
 - ・定例会資料準備 7月23日(火) 10:30-12:00 851C
2. 8月 定例会・談義の会は休会
3. 2019年9月例会 9月27日(金) 会場：1号館308-1室 月担当：片山、田中(晃)
 - ・第170回談義の会
テーマ：『防災めぐり(子供編)ワークショップ』 指導：片山晋氏
 - ・役員会 9月10日(火) 10:00-12:30 851C
4. 川崎市健康衛生研究所 見学会&講演会 10月11日(金) 13:00 集合
 - ・施設見学会：30名 ・講演会：50名 ・場所：川崎生命科学・環境研究所2F (川崎区殿町)

以上

(記録：中村誠)